

セーブ・ザ・チルドレン 2022 年「冬休み 子どもの食 応援ボックス」利用者アンケート結果



2023 年 1 月

公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

<「冬休み 子どもの食 応援ボックス」実施概要>

【実施期間】	・申込受付：2022年10月31日～11月10日（※申込環境の不具合により、11月14日～11月17日に一部申込を受付） ・発送：12月5日から順次発送し、年内に配送完了
【配布世帯数】	5,006世帯（※期間中に申し込みがあった5,754世帯のうち、書類などで申込条件を満たしている、かつ抽選で当選した5,006世帯に発送し、受け取りを確認。）
【申込条件】	1. 日本国内に居住する 2. 0歳～18歳までの子どもを扶養する 3. 所得割非課税世帯またはそれに準ずる
【配布内容】	・食料品セット（米、麺などの主食、副菜、飲料、お菓子など） ・文具 ・情報提供（子どものこころのケアのリーフレットなど）
【実施目的】	長期休暇中に栄養不足に陥りがちな、経済的に困難な状況にある家庭の子どもたちの食・栄養状況改善のため。

<「冬休み 子どもの食 応援ボックス」利用世帯アンケート 実施概要>

【調査対象】	2022年「冬休み 子どもの食 応援ボックス」を利用した5,006世帯
【調査方法】	オンラインフォームへの回答
【実施期間】	2022年10月31日～2022年11月10日 ※「冬休み 子どもの食 応援ボックス」申し込み時に回答 ※申込環境の不具合により、一部は11月14日～11月17日に回答
【有効回答数】	5,006世帯（人）

アンケート結果から明らかになったこと

1. 【物価上昇が生活を圧迫している】

物価上昇について質問したところ、約 98%が何らかの費目で物価高の影響を感じると選択しており、特に食費や日用品、光熱費など、生活に欠かせない部分で影響を感じている世帯が多い。また、別の質問では 8 割以上が「物価の上昇により生活が苦しい」と回答した(本ページ 4.および p.8 参照)。

2. 【食事の頻度が低い】

食事の状況について質問したところ、給食がない期間に毎日昼食を食べられていない割合は 4 割にのぼった。また、肉や魚、野菜や果物を摂取する頻度が低い家庭も一定数存在することがわかった。

3. 【子ども時代の体験の機会が制限されている】

アンケート回答時から、過去 1 年間（2021 年秋～2022 年秋）の多様な経験の有無を質問したところ、経済的な理由により「クリスマスなどの季節の行事をお祝いする」ことができなかった世帯は約半数、「お年玉を渡す」ことができなかった世帯が 6 割以上、家族旅行や海水浴、スキーなどのレジャーについては、約 9 割の世帯ができなかったと回答した。長期休暇中に多くの子どもが経験するこれらの体験が、経済的に困難な状況にある世帯では制約される状況が浮き彫りになった。

4. 【生活や将来に関わる不安が大きい】

今困っていること、心配なこと、社会や行政に伝えたいことを質問したところ、「物価の上昇により生活が苦しい」が 8 割以上と最も多く、次いで約 7 割が「子どもが食べ盛りで食費がかかる」、「子どもの進学費用が用意できるかわからない」と回答した。

1. 利用世帯の傾向 申込時のアンケート結果より（有効回答 5,006 件（人）、アンケート回収率 100%）

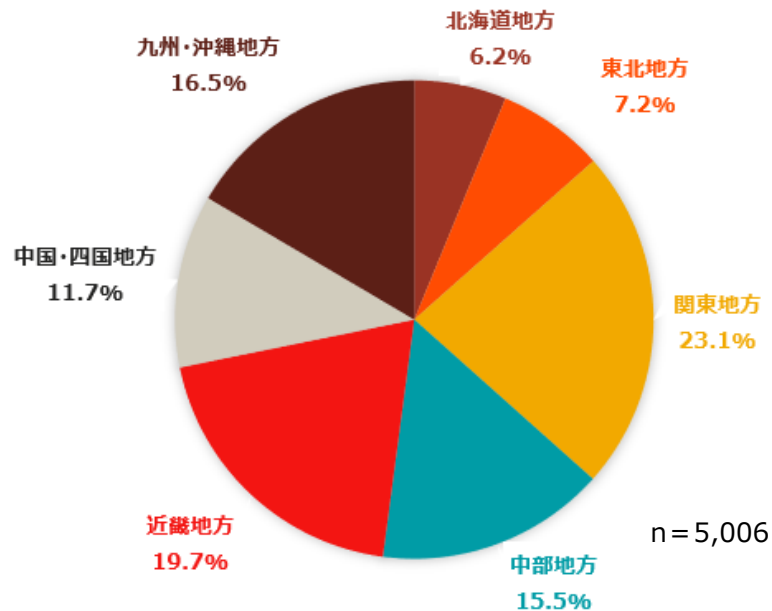
保護者の性別

女性が 97.2%、男性が 2.5%、回答しないが 0.2%

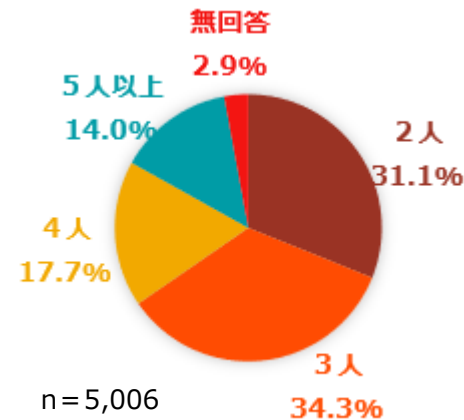
世帯状況

95.0%がひとり親世帯、4.7%がふたり親世帯、
その他が 0.3%

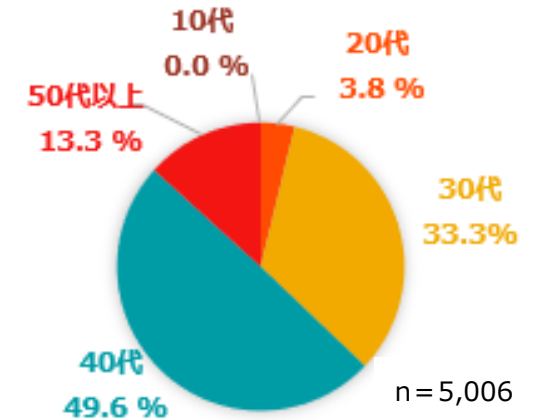
居住地域



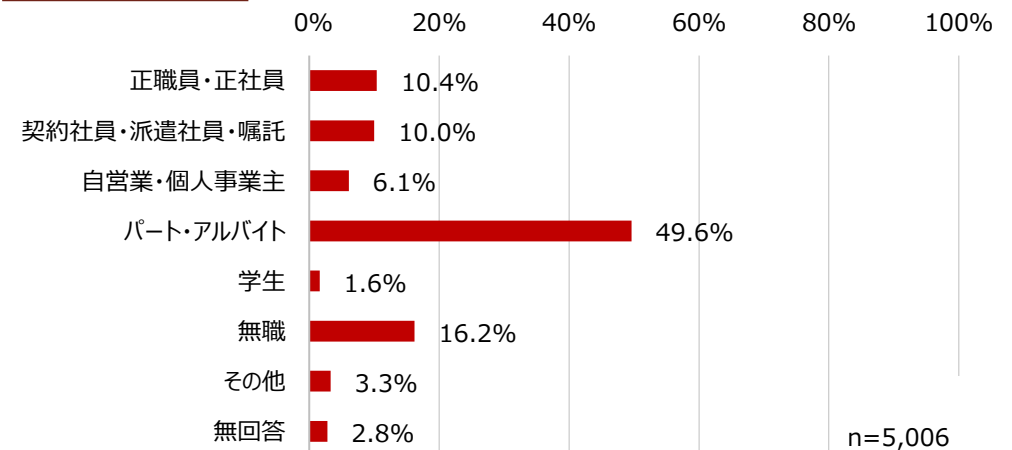
世帯人数



申込した保護者の年代

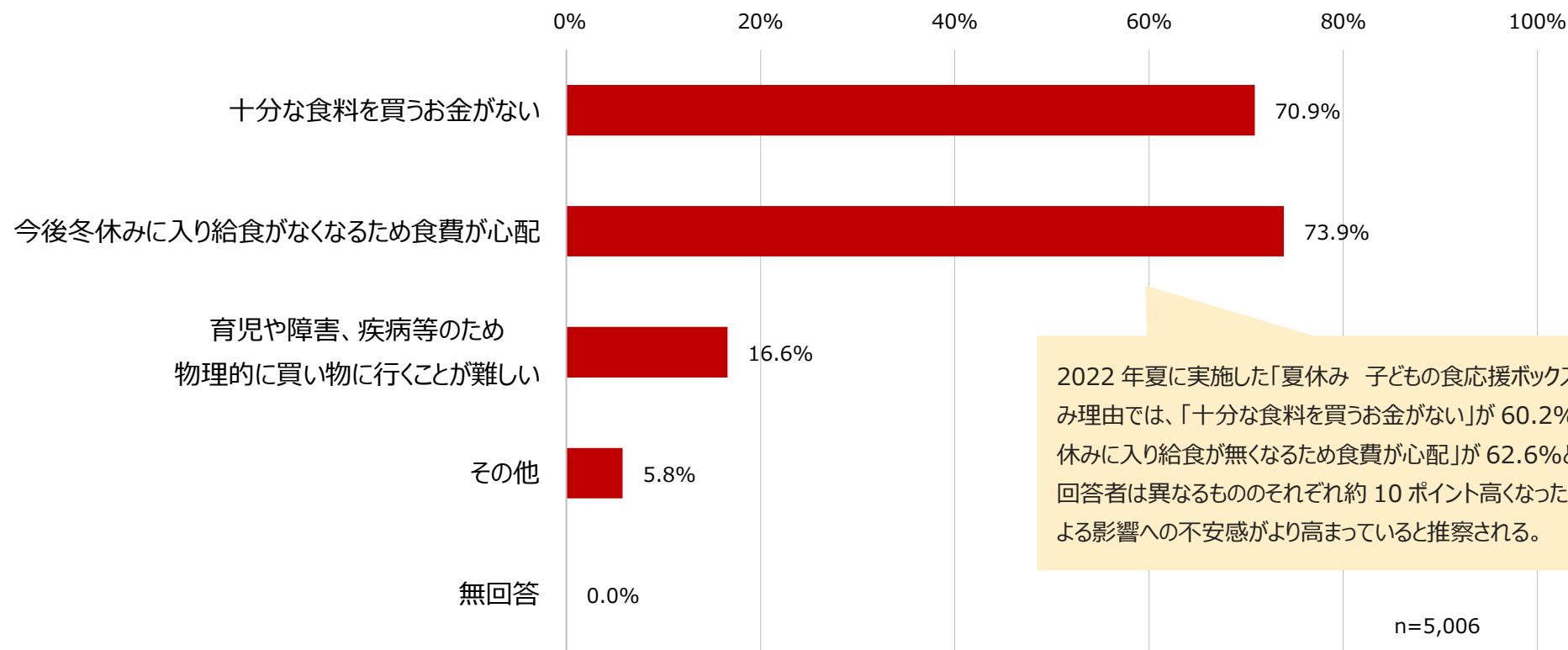


就業状況



2. 申し込み理由

申込時の質問：本ボックスの申し込み理由を教えてください。（任意、複数回答）

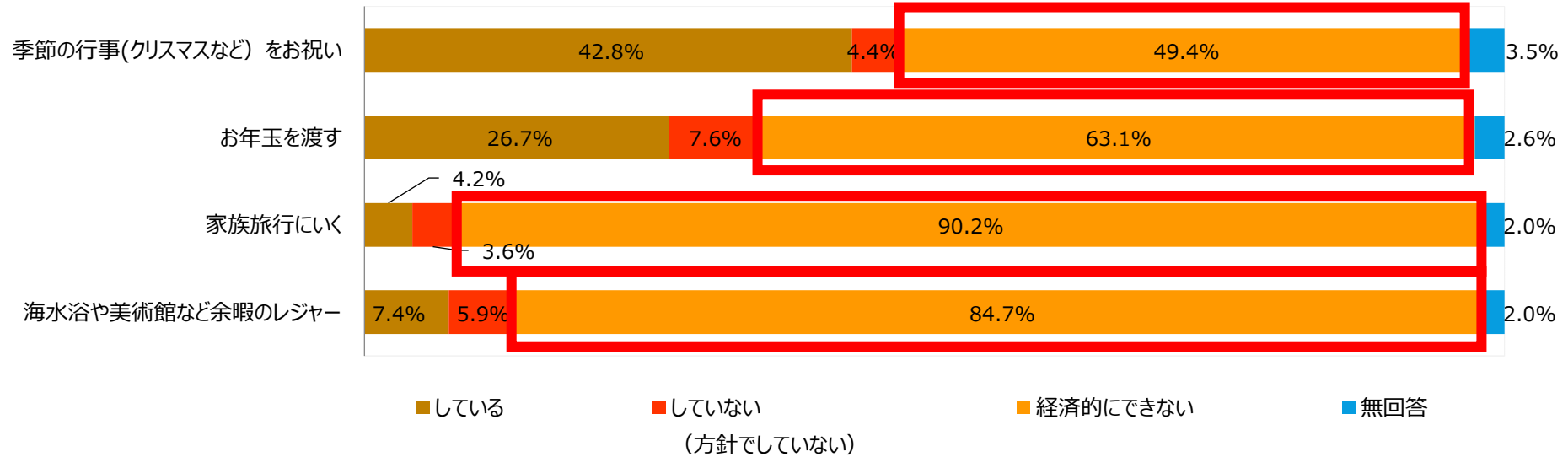


● その他の内容（一部）

- ・コロナ禍で、食料品をはじめ日用品や光熱費も高騰し、教育費（学校行事の参加費や学用品、参考書代など）にあてるお金がほとんどないため。塾にも通わせてあげたいがその費用もない。生活が苦しいため。（50代以上・女性）

3. 支払い困難の経験

申込時の質問：この1年間で経済的な理由からできなかったものはありますか。（任意、複数回答）

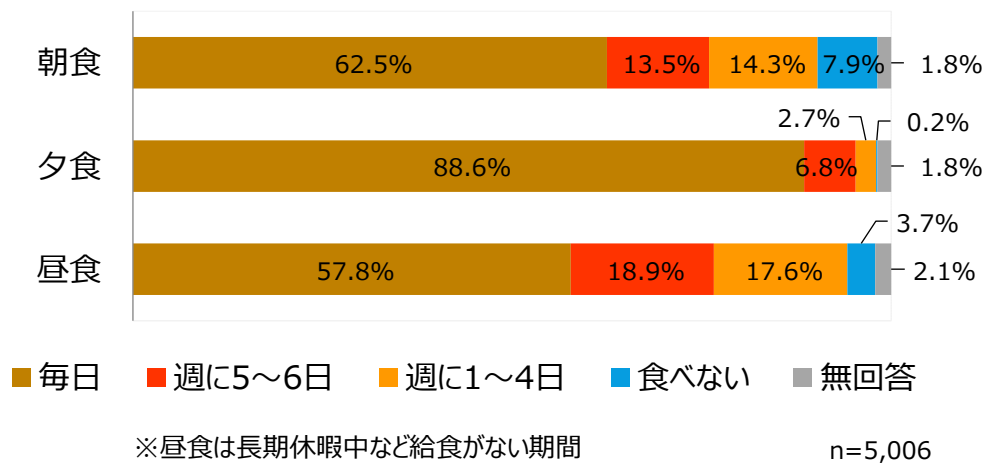


n=5,006

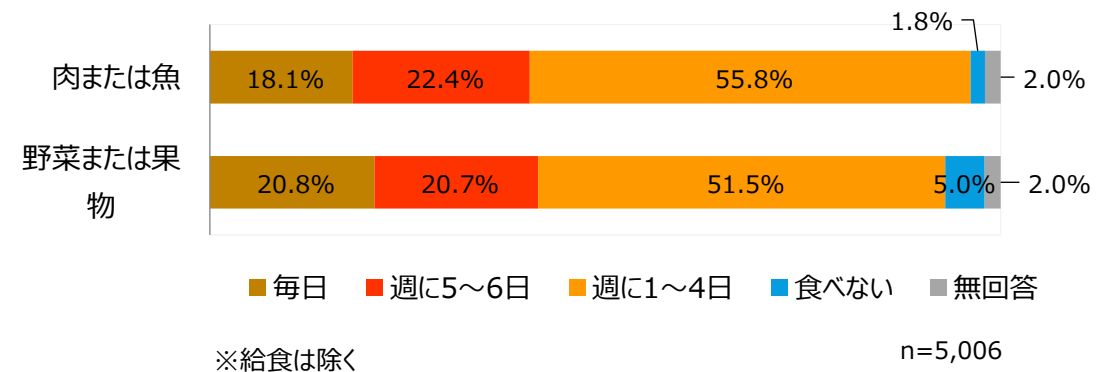
アンケートに回答時から、過去1年間（2021年秋～2022年秋）で多様な経験の有無を質問したところ、経済的な理由により「クリスマスなどの季節の行事をお祝いする」ことができなかった世帯は約半数、「お年玉を渡す」ことができなかった世帯が6割以上、家族旅行や海水浴などのレジャーにいたっては、約9割の世帯でできなかったと回答した。長期休暇中に多くの子どもが経験するこれらの行事が、経済的に困難な状況にある世帯では行うことが困難であることがわかった。

4. 子どもたちの食をとりまく状況

申込時の質問：子どもは週にどれくらいの頻度で食事をして
いますか。（任意、単数回答）



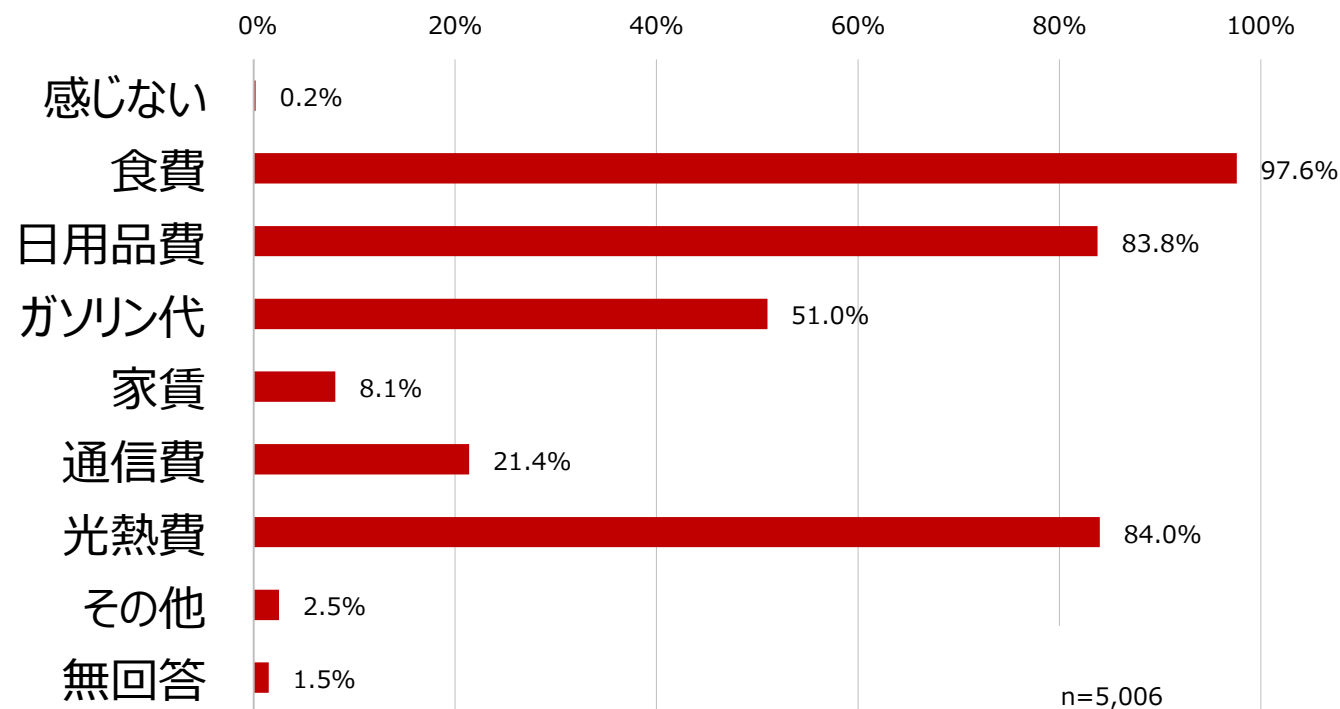
申込時の質問：子どもは週に肉や魚、野菜や果物をどれくらい
の頻度で食べますか（給食は除く）。（任意、単数回答）



アンケートに回答した 5,006 世帯のうち、**給食がない期間に毎日昼食を食べられていない割合は 4 割にのぼった**。また、**肉や魚、野菜や果物を摂取する頻度が低い**家庭も一定数存在することがわかった。

5. 物価高の影響

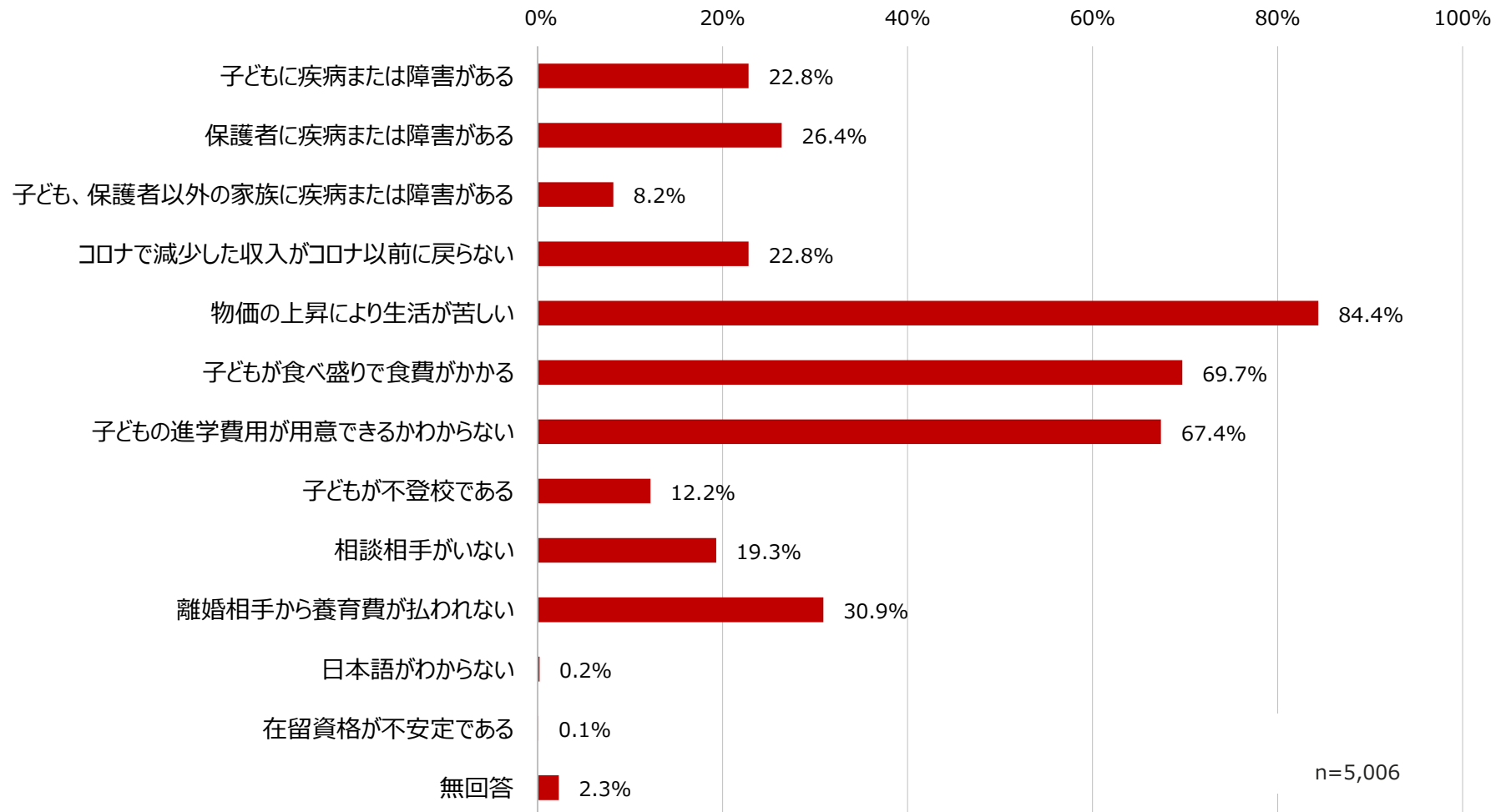
申込時の質問：物価上昇の影響を感じますか、感じるとしたらどのような費目についてですか。（任意、複数回答）



アンケートに回答した 5,006 世帯のうち、「（物価高の影響を）感じない」が 0.2%、無回答が 1.5%であった。つまり、**約 98%が物価高の影響を感じており、特に食費や日用品、光熱費など、生活に欠かせない部分で物価高の影響を感じている世帯が多い。**

6. 困っていること、心配なこと、社会に伝えたいこと

申込時の質問：今困っていること、心配なこと、社会や行政に伝えたいことは何ですか。（任意、複数回答）



7. 困っていること、心配なこと、社会に伝えたいこと（自由記述抜粋）

<物価高に関する心配>

- ・収入が低いため元々貯蓄できていなかったが、物価高でますます困難になっている。子どもは小学校高学年だが、中学生に進学すると制服代などまとまった金銭が必要となるはずなので、捻出できるか今から不安である。（40代・女性）
- ・この先、物価高で指定の学用品も買えなくなりそう（既に指定の物に似たものにはしていますが…）です。（40代・女性）

<食費に関する心配>

- ・今は給食費が無料で助かっていますが、来年は高校生になる予定で給食がなくなってしまうので経済面や栄養面がとて不安です。（40代・女性）

<養育費に関する心配>

- ・養育費は調停をしてきちんと決めて、履行勧告も4回しているのに払われぬ。逃げ得が許されている現状。（40代・女性）

<進学費用に関する心配>

- ・子供3人のうちの2人が中学・高校への進学を控えています。進学費用はどうにかして工面しますが、かなり貯金を切り崩さないとやりくりできそうにありません。不安を子どもたちの前で見せてしまうと恐縮してしまうので何とかしようとは思っていますが、入学準備に数十万円必要になるのは負担が大きいです。（40代・女性）

<子どもの障害についての心配>

- ・子供が2人いるが、下の子が発達障害(自閉症)の為、今後の成長と共にどうなっていくのかが未知の世界なので不安。ひとり親ということもあり、自分がもし不慮の事故で命を落としてしまったらと、考えると子供たちのことが心配ではない。（30代・女性）

<保護者の病気についての心配>

- ・コロナにより失業、うつ病になってしまい持病もあり生活苦です。（30代・女性）